



式辞 本日、学士・短期大学士・修士の学位を授与されたみなさん、ご卒業誠におめでとうございます。ご家族の皆様、並びに関係者の皆様には心からお祝いを申し上げます。また、お忙しいなか、本日ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には、厚くお礼申し上げます。

私たち教職員は、南九州大学・南九州大学短期大学部・南九州大学大学院に進学し本日晴れて卒業の日を迎えたみなさんと本学で出会えたことを喜ばしく思っております。みなさんの前途洋々とした門出を心からお祝いし、みなさんのこれからの道のりが祝福されることを祈念しています。

本日、みなさんが授与される学位は、豊かな自然に恵まれた宮崎の地にある本学において、食・緑・人のそれぞれの専門分野に関する知識や技術を習得したことの証であり、農業・園芸・造園分野に携わる人材、食品関連産業や栄養指導に携わる人材、学校等の教員として子どもたちへの教育に携わる人材、様々な資格を取得して地元宮崎で活躍できる人材として、卒業後にそれぞれの分野で歩みを進めることとなります。本日授与される学位を得たことに誇りと責任をもって、これからの人生を歩んでください。

みなさんにとって、本日この日を迎えるまでは決して平坦な道りではなかったことと思います。学生生活を送る中で、時には困難や迷いに直面したこともあったのではないのでしょうか。みなさんの高校時代から始まったコロナ禍において、対応に戸惑う日々もあったことと思います。しかし、それらの試練を乗り越え、晴れて卒業の日を迎えるに至ったのは、みなさん一人ひとりの努力の賜物であると、心から敬意を表します。

さて、これから新しい道を切り開きながら進んでいこうとする卒業生のみなさんに、私から一つの言葉をお贈りします。それは「目の前にあることを感謝する」という言葉です。

みなさんはどのようなときに感謝の気持ちを持つでしょうか。人から親切にされたり、親身に世話をしてもらったりしたとき、また人から贈り物をいただいたときには自然に感謝の気持ちを持つことと思います。また、もし心が弱っているときに家族、友人、同僚から温かい言葉を掛けられると感謝の気持ちが湧くことでしょう。

私が申し上げる「目の前にあることを感謝する」とは、現状にまず感謝することです。

私たちは自分や周りの環境には足りないものや必要なものがあると常に考えがちです。自分が

置かれている環境で足りないものに目を留めれば限りがありません。欲するものを挙げ始めると尽きなくなることでしょう。もちろん満足でない現状を打開したり改善できたりすることについては、変えるための努力を重ねることが重要です。

パナソニックを一代で築き上げた松下幸之助氏は、「鉄をも金(きん)に変える(金:gold)ような感謝の心をもつ」と述べています。普段は価値を高く見いだしていないものについても感謝の気持ちをもてば、高い価値を見いだすことができるようになり、さらに上手に活用することができるようになる、すなわち感謝の心は「鉄をも金に変える」という言葉を述べているのです。

これまでのみなさんの歩みは自分自身の努力とともに、みなさんのご家族、ご親族、友人、地域の皆様をはじめとする多くの方々の支えにより達成されたものです。

この卒業という節目にあたり、これまでみなさんを見守り、励まし、支えてくださったすべての方々への感謝の気持ちを、あらためて心に刻んでください。

また、これから歩む社会でも、多くの人との関わりの中で生きていくことになります。人の話に素直に耳を傾けながら支え合い、助け合うことの尊さを知り、感謝の気持ちを持つことで、みなさんの歩む人生が豊かなものになるものと信じております。

南九州大学・南九州大学短期大学部は創立後五十七年が経過し、卒業生は合わせて一万六千名を超えています。みなさんの先輩たちが様々な分野で活躍しています。このたび本学を卒業し、それぞれの道を歩もうとする卒業生のみなさんがこの先輩たちに続いて大いに活躍されることを期待しています。

結びになりますが、みなさんが宮崎キャンパス・都城キャンパスで過ごした経験を糧にして、それぞれの場で力強く歩んでいかれることを、私たち教職員は心から願っています。

これからのみなさんの輝かしい未来と、関係するすべての皆様のご多幸を祈念し私の式辞とさせていただきます。

令和七年三月十四日 南九州大学・南九州大学短期大学部学長 中瀬昌之